



SMI-S プロバイダの詳細設定を管理します

NetApp SMI-S Provider

NetApp
January 02, 2026

目次

SMI-S プロバイダの詳細設定を管理します	1
概要	1
SMI-S プロバイダの自動キャッシュ更新間隔を指定します	1
具体的なジョブの有効期間の値を指定します	1
ONTAP APIコールタイムアウト値の指定	2
メッセージサービスキューあたりの最大スレッド数を指定します	2
NetApp SMI-S プロバイダの認証を有効または無効にします	3
SMI-S プロバイダで通知を有効にします	3

SMI-S プロバイダの詳細設定を管理します

概要

SMI-S キャッシュの更新間隔、ONTAP API コールタイムアウト、メッセージサービスキューごとのスレッドの最大数など、SMI-S プロバイダの詳細設定を管理できます。

SMI-S プロバイダの自動キャッシュ更新間隔を指定します

デフォルトでは、SMI-S プロバイダはストレージシステムから 5 分（300 秒）ごとに情報を自動的に取得します。自動キャッシュ更新間隔（「`cache_refresh_SEC`」環境変数）は、300 ～ 86400 秒（24 時間）の値に設定できます。

作業を開始する前に

- Administrator としてのログインクレデンシャルが必要です。
- ホストシステムに Administrator としてログインしている必要があります。

このタスクについて

ストレージ・システムの状態をいつでも手動で更新する場合は 'SMIS refresh' コマンドを使用できます

手順

1. NetApp SMI-S Provider にアクセスします。
2. 新しい更新間隔の値（秒単位）を使用して 'cache_refresh_SEC' という名前のシステムまたはユーザ環境変数を作成します

環境変数の作成については、Windows のマニュアルを参照してください。

3. CIM サーバを再起動します。

```
SMIS cimserver restart
```

具体的なジョブの有効期間の値を指定します

SMI-S プロバイダは、`_コンクリート job_` を作成することで、非同期操作の進行状況を追跡します。具体的なジョブの有効期間をデフォルトの 60 分（3600 秒）から 86400 秒（24 時間）まで延長できます。

作業を開始する前に

- Administrator としてのログインクレデンシャルが必要です。
- ホストシステムに Administrator としてログインしている必要があります。

ステップ

1. 新しいライフタイム値（秒単位）を使用して 'job_lifetime_SEC' という名前のシステムまたはユーザー環境変数を作成します

環境変数の作成については、Windows のマニュアルを参照してください。

ONTAP APIコールタイムアウト値の指定

SMI-Sプロバイダは、ストレージシステムへのONTAP API呼び出しを実行します。デフォルトでは、ONTAP APIコールタイムアウトは300秒です。タイムアウトは 60 ～ 300 秒の値に設定できます。

作業を開始する前に

- Administrator としてのログインクレデンシャルが必要です。
- ホストシステムに Administrator としてログインしている必要があります。

ステップ

1. 新しいタイムアウト値（秒単位）を使用して 'ONTAPI_TIMEOUT_SEC' という名前のシステムまたはユーザ環境変数を作成します

環境変数の作成については、Windows のマニュアルを参照してください。

メッセージサービスキューあたりの最大スレッド数を指定します

デフォルトでは、SMI-S Provider はメッセージサービスキューごとに 80 スレッドを許可します。最大スレッド値は 1 ～ 5000 で指定できます。最大スレッド数を増やすと、SMI-S Provider マシンのパフォーマンスに影響を与える可能性があるため、この値を増やす必要があるかどうかを慎重に検討してください。

作業を開始する前に

- Administrator としてのログインクレデンシャルが必要です。
- ホストシステムに Administrator としてログインしている必要があります。

このタスクについて

トレース・ファイルに「不十分なリソース」出力の行が多数表示されている場合は、スレッド数を 500 ずつ増やす必要があります。

スレッドの最大数を 20 未満に設定した場合は、「* cimcli -n root/ONTAP Niall *」コマンドを使用してプロバイダが応答しなくなり、トレースファイルに「Insufficient threadpool」メッセージが返されます。この場合は、スレッド数を 500 ずつ増やす必要があります。その後、プロバイダを再起動してください。

手順

1. NetApp SMI-S Provider にアクセスします。
2. 新しい最大スレッド値を使用して 'PEGASUS_MAX_THREADS_PER_SVC_QUEUE' という名前のシステムまたはユーザ環境変数を作成します

環境変数の作成については、Windows のマニュアルを参照してください。

3. CIM サーバを再起動します。

```
SMIS cimserver restart
```

NetApp SMI-S プロバイダの認証を有効または無効にします

デフォルトでは、SMI-S プロバイダに対して認証が有効になっています。認証によってシステムでエラーが発生した場合は、必要に応じて無効にすることができます。認証を無効にしたあとで再度有効にする場合は、再度有効にすることができます。

作業を開始する前に

- Administrator としてのログインクレデンシャルが必要です。
- Administrator としてログインしている必要があります。
- System Center Virtual Machine Manager (SCVMM) を含むすべてのクライアントは、CIMUser と cimpassword を使用してプロバイダに接続する必要があります。

手順

1. NetApp SMI-S Provider にアクセスします。
2. SMI-S プロバイダの認証を設定します。

アクション	コマンドを実行します
• 以前無効にした場合は認証を有効にします。 *	<pre>cimconfig -p -s enableAuthentication=true</pre>
• 認証を無効にします *	<pre>cimconfig -p -s enableAuthentication=false</pre>

CIMOM は Windows 認証を使用しません。

3. NetApp SMI-S プロバイダを再起動します。

```
SMIS cimserver restart
```

SMI-S プロバイダで通知を有効にします

アラート、ファイルシステムクォータ、およびライフサイクルの通知は、デフォルトでは無効になっています。これらの表示を有効にするには '環境変数 PEGASUS_DISABLE_DEIGEMENT を 'false' に設定します

作業を開始する前に

- Administrator としてのログインクレデンシャルが必要です。
- ホストシステムに Administrator としてログインしている必要があります。

このタスクについて

「PEGASUS_DISABLE_DEISMそれら」が「false」に設定されている場合、NetApp SMI-S Provider で Alert (「ONTAP_AlertIndication」)、FileSystem Quota (「ONTAP_FSQuotaIndication」)、および Lifecycle インジケータが有効になります。

手順

1. NetApp SMI-S Provider にアクセスします。
2. 「PEGASUS_DISABLE_DELITES」環境変数を「false」に設定します。
3. CIM サーバを再起動します。

SMIS cimserver restart

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。